

美術科教育学会通信

1994年5月17日発行 : 美術科教育学会本部事務局
〒184 東京都小金井市貫井北町4丁目1-1 東京学芸大学 美術科教育学研究室内
TEL. 0423-25-2111 (内) 2856, 2857, 2858 FAX. 0423-21-3695

No. 1 3

美術教育とその研究の自律的展開をめざして

学会副代表理事 石川毅

美術科教育学会も16年の歴史を積んで、さらに確かな歩みをするのが期待されている。確かな歩みとは、美術教育に関する学問研究の蓄積が、会員層の厚さ、学会の組織的運営、学会誌のレベル、研究発表の多様性とその内容の充実などとして示され、それが他の関係領域の学問にも刺激となり、その研究成果が社会的な場に還元されて、広く客観的な評価にも耐えうるようになるということである。

わが学会を省ってみれば、会員、学会運営には、問題なく将来への期待がもてる。しかし学会誌ならびに研究発表には、なお多くの考えるべき問題が残されていると思われる。

すなわち、一つは、これまでの豊かな研究成果は、必ずしも美術教育学そのものが内包する規定根拠の確かさから生み出されたものではなく、いわゆる業績主義に負うところが多いということである。

二つは、そこに見られる研究対象と方法それぞれの多様性と complexity 混乱である。

そして三つに、それは教科教育学の哲学ともいうべき広い視野に立った研究の場がないこと、つまり美術科教育学の体系性の不備を示しているということである。

その結果、われわれは多くの研究成果を前にしながら、それらに共通に認められるべき基本的な学問的関心性を見出せない、ということに直面するのである。

もちろん、多くの様々な研究成果が自ずから一つの体系性を生むには違いが、この学問の自立的な体系性は、それを意識しなければ生まれては来ないだろうと思う。

文部省は科学研究費補助金による助成に際して、その応募研究分野を約240の細目で規定しているが、美術教育(学)という独立した細目はないので、他の細目に美術教育学をその内容と方法とから関連させると、方法的に関連する領域は幾つかあるけれども、「美学(含芸術諸学)」「教育学」「教科教育」が主たるものとなる。

つまり、美術教育学の自律の道は、何か他の学問の自律性に添っていくことではじめて可能なのである。その柱となる学問は美術教育の様々な研究対象と方法とに応じていろいろあるとはいえ、それがあまりに多岐に分かれることは、学問的な意味での美術教育の基盤がないことを意味する。そこで当面、「教科教育」がそれを保証するのだが、「教科教育」の学問的自立がなお確立しているとはいえないことを考えると、美術科教育自律の支えを伝統的な「教育学」「美学(含芸術諸学)」に求めるのも一つの必然なのである。それはともあれ、いま述べたような美術教育の自律を学問的に保証する自律的領域への関わりを先の「基本的な学問的関心性」と呼ぶのである。

学問の総合性(interdisciplinary)とは、それに関わる諸学の自律を保ちつつ新しい問題領域を開拓し、その解決の方法を見出すことであろう。その意味で、自立の難しい美術教育は、このような総合性に生きながら、その多様な対象と方法との中に自立の道を見出す他はなく、わが学会がそれを援助して美術教育の自律を支えるとき、一層確かなものとなるのが期待される。

第16回美術科教育学会信州大会報告

信州大学 関谷俊行

はじめに、この学会大会がほぼ滞りなく会期を終了できましたことは、ご参会の皆様のご協力、学会役員のご尽力、さらには関係団体各位の格段のご支援によるものと心より感謝申し上げる次第であります。

1 事前準備段階

- (1) 今回、特にこの地方を中心に学会に対する関心や意識の高揚が見られましたが、その背景には昨年8月9日開催の第5回「出前シンポ」の成果があります。シンポジウムの概要と学会代表理事はじめ本部事務局の積極的な対応は『アート・エデュケーション』21号に報告いたしました通りです。
- (2) 研究発表者への周知方につきましても学会本部の配慮で、当初予定の締切日が12月20日まで延長された結果、これまでで最多の67名の発表申込を頂きました。その結果4会場の予定を急遽5会場に変更いたしました。
- (3) 今回は郵便振替による事前の参加申込をお願いしましたが、150名以上の方々から事前の申込がありました。開催事務局として見通しを立てやすいこのシステムは今後も活用すべきと考えられます。

2 研究発表大会

- (1) 参加者の総数は251名で、会員158名(63%)、一般参加(出展業者7件を含む)69名(27%)、学部等学生16名(6%)、県内教員8名(3%)と集計されております。このうち現職教員の場合、大会時期が新学年準備などと重複しますので、今後は土・日曜を含む日程設定が学会発展のためにも肝要と考えられます。
- (2) 研究発表総数67件(うち連名3件)。発表者の所属は大学・短大23、専門学校1、高校1、中学校8、小学校7、養護学校1、博物館等3、大学院生25、研究生1で、それぞれの研究内容を、心象・想像表現14、総合・環境教育11、海外・文化比較11、造形発達7、教育史7、評価・分析4、療法教育3、美術館教育3、CAI 2、授業研究2、その他3に類別し、関連的に5分科会場に配置しましたが、ビデオの使用希望が多かったため2～3交代していただいたケースもあります。今回はどの会場も手頃な大きさだったためか、連日各分科会とも参会者によって埋まり、熱心な質疑や研究討論の印象が強く残っております。
- (3) 第2日目の午後は学部近くの信濃教育会館大講堂に移動して、国立国際美術館館長の木村重信先生の記念講演「人類の芸術とこれからの美術教育」を約170名が静聴。引き続き夕刻からは、長野ホテル厚北館での恒例の懇親会に130名以上が参集し、盛会のうちにさらに研究交流の対話を深めております。

3 学会関係行事

- (1) 役員会は1日目午後5時より、役員宿舎の山王共済会館会議室において、理事26名監事2名にて開催、総会議案等について慎重審議いたしております。
- (2) 最終日の学会総会は正午より、学部E504教室に約130名が出席、軽食を摂りながら予定議案を無事可決。その後、閉会行事を終えて散会した次第であります。
最後になりましたが、会期3日間の天候は早春賦の歌詞のように「春は名のみの」信濃路を実感されたことと思っておりますが、暖房が不十分で風邪など、不快なご迷惑があったのではないかと懸念いたし、改めて不行届きにつきましては深くお詫び申し上げます。

「美術教育の課題と授業研究部会」発足の案内と会員募集

神戸大学 東山明

いま美術教育は存続の危機に関わる重大な問題に直面しています。

学校週5日制にともない、次期教育課程の改定において、中学校美術科の時間数の削減問題、あるいは芸術教科の選択制の動き、小学校においても教科内容の大幅な変更や統合の動きがあります。

「美術科教育学会」においても、美術教育のこのような今日的課題について、研究討論をし、方向性を明確にしていく必要性が高まってきました。

この「美術教育の課題と授業研究部会」は、その核となって、多くの会員の知恵を集め研究活動を進めていきたいと思っています。

第16回学会総会（信州大会、94.3.30）において「教授学研究会」（仮名）として発足しましたが、「美術教育の課題と授業研究部会」の名称で研究活動を進めたいと思います。

1 研究内容

- (1) 子どもの現状と美術教育における今日的な課題の研究と検討
- (2) 美術教育の内容と方向性、文部省の教育課程、学習指導要領の研究と検討
- (3) 美術の授業研究と教材開発・研究
- (4) 芸術文化をめぐる学校教育と社会教育の連携について

2 研究部会の活動

- (1) 研究部会、シンポジウムなどの開催
- (2) 研究資料、研究物の交流・情報交換
- (3) 研究会員募集、組織の確立

入会登録・問い合わせは、当面、神戸大学／東山明が担当します。

連絡先：657 神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学 東山明 ☎078(803)0885

または自宅 ☎ FAX. 0798(47)6968

文部省科学研究費補助金について

大学関係の会員には馴染み深い制度ですが、それ以外の会員の方々のために「科研費」のあらましを記しておきます。

「学術振興に寄与するために、あらゆる分野における学術研究を発展させることを目的とする研究助成費であり、高度の研究成果を期待し独創的・先駆的研究を重視する」というのがこの研究費の目的と性格で、全ての研究者に平等に与えられる唯一の公的助成。

研究種目はいろいろあり、研究機関を經由して毎年12月に応募する。公募要領は文部省で配布（有料）している。大学以外の幼稚園や小・中・高等学校、教育委員会などに勤務する研究者が一人で行うものは「奨励研究B」の種目が相当する。

審査は学術会議に登録している学術団体から（文部省から要請がある）選ばれた審査員によって行われ、第1段審査は類似学会の、第2段審査は他学会の審査をそれぞれ行い決定されるが、詳しいことは不明。美術科教育学会からは審査員は出ていない。

平成5年度は26,000件、730億円に及ぶ助成が行われた。採択率は27.4%で、充足率74.5%。（詳細は「文部省科学研究費補助金採択課題一覧」ぎょうせい刊、を参照下さい）。

採択をめぐっては、学問研究の体系性に基づいた学問領域の細目に従って学術団体が審査する点で、自分の研究領域の自律性と学術上の評価が問われることとなります。美術教育関係の研究がこの助成を受けるということは、その学術上の評価が得られたことを意味するといつてよく、多くの方々の応募が待たれます。

最後にお願ひですが、採択された研究については本部事務局までお知らせ下さい。またこの補助金以外にも、何らかの研究助成を得た場合も情報をお寄せ下さい。

ミニインフォメーション

1. 学会誌関係

すでにお知らせしていますように、学会誌への投稿締め切りが7月末日に変わっています。半月だけ繰り上がっているのですが、なにぶん夏休み中の2週間ですので、その影響は小さくないかもしれません。より丁寧に査読をしていきたいとの思いが背景にあることですので、なにとぞご了解下さい。

そのことと関連しまして、5月20日締めきりで投稿希望調査をしていますが、万一連絡を受けていない方がいましたら、至急ご連絡下さい。宛先は学会本部事務局です。

2. 学会通信での情報サービスについて

前回、学会通信12号をお送りしました際に、会員が関係します出版やイベントのチラシを試みに同封してみました。その後のリサーチでは、サービスへの評価は2分されるようです。事務局（主に総務担当の柴田）としましては、草の根の活動を支援したいとの思いから提案してみたのですが、そのようなことでこのところ少し慎重になっています。しかし一つの試みとしまして、情報の選択・扱い方に注意して、今しばらくは続けたいと思っています。特に若手会員からの情報を心待ちにしています。

3. 関連他学会の備忘

「第43回日本美術教育学会 & 日本造形の会」交流大会が8月5～7日の日程で、お茶の水女子大学付属小学校を会場に開かれます。「超現代と伝統文化」「造形への夢と現実の構図」を共通課題としての研究協議、「新学力観から真学力観へ」をテーマとするシンポジウム（8月7日14:00～18:00、パネラー：河野重男 東京家政学院大学長、水越敏行 大阪大教授、辻村哲夫 文部省審議官、有園格 日本教育新聞編集局長）などが予定されています。大会事務局はお茶の水女子大学付属小学校（☎03-3943-3151 内線480）。

4. 新入会員の紹介

中村豪	池内慈朗	相田隆司	半田環	細田育宏	横内克之	高石次郎	山ノ下堅一
伊藤晃二	宇佐美(新村)明子	小林貴史	西信高	長棹真実	北村隆博	磯部錦司	
森田幸子	原田昌幸	三村尚子	上村浩子	小島正好			

会員勧誘のために入会案内と申込書を入れておきました。ご面倒ですがご協力下さい。

5. 会費納入のお願い

学会通信をお送りしました封筒の宛名シールの最下行に、各会員の会費納入状況を記してあります。各自ご確認の上、同封の「郵便貯金総合サービス」用の振込み通知表にて、6月30日までに下記口座へ過不足なくお振り込み下さい。

【口座番号】10050-64710321

【加入者名】美術科教育学会本部事務局 会計担当 増田金吾

なお、宛名シール最下行の【 】内の数字の意味は下記の通りです。

【91.92.93.94】 - 91年度より未納 4.000+4.000+6.000+6.000=20.000円

【92.93.94】 - 92年度より未納 4.000+6.000+6.000=16.000円

【93.94】 - 93年度より未納 6.000+6.000=12.000円

【94】 - 94年度より未納 6.000円

【94済】 - 94年度分納入済 0円

その他の例 【93(2.000円未納).94】 - 93年度2.000円分と94年度分未納
2.000円+6.000円=8.000円

なお3年以上、海外に行かれる方はお知らせ下さい。学会費との関連がありますので。